

項目	入力欄
教員名	専門演習（政治過程論） 大黒太郎
授業概要とねらい	<p>演習共通テーマ：「民主クラシーの実践をめぐる日独比較」 2018年度のテーマ：日本とドイツの「持続可能な『地域』を作る仕組み」を比較する</p> <p>比較の視点で先進産業諸国を見回すと、労働時間が年間2000時間を超える国もあれば、1400時間を切っている国もあります。原子力発電所の全廃をすでに決断した国もあれば、今でも積極的に推進している国もあります。失業率が10%を超える国もあれば、3%程度の国もあります。労働人口のうち「外国人」の占める割合が45%を超える国もあれば、0.3%に過ぎない国もあります。同性愛者同士の結婚が合法化されている国もあれば、そうした方向性すら想像できない国もあります。出生率が向上している国もあれば、劇的に低下している国もあります。このように、「先進産業社会」として共通性が多いと思われるような国々でも、社会構造やそこに住む人々の働き方、生き方、人生観、ライフチャンスなどには、大きな違いがあります。</p> <p>この演習では、各国において、「市民生活」がいかなる点でどのように異なっているのかを明らかにするとともに、なぜこうした違いが生まれるのか、その要因を深く探ります。各国比較を通じて、自分たちが生きる社会の構造を再確認し、批判的に社会の現状を見る視点を獲得するとともに、（遠回りしながらですが）、自分がこれからどう生きていきたいのかを考えるきっかけになる演習にしたいと思います。</p>
望ましい水準	「成績評価の方法」の項目にあるように、成績評価は自己評価なので、望ましい水準など、演習に求めるものは自分で設定してください。ただし、理由のない欠席、無断欠席は、それが一度であっても単位を落とすことに直結するので、注意してください。
授業計画	<p>2018年度は日本とドイツの「持続可能な地域」を作る仕組みを比較検討します。 2017年度の本演習では以下のような四国研修旅行を実施したことを受け、2018年度はとくに、ドイツの取り組みに焦点を合わせた研究を行う予定です。</p> <p>2017年度は、東北福島と四国の「地方都市」「県庁所在地」が抱える共通の課題やそれぞれに異なる課題、さらには共通の課題に対する異なった取り組み、東北からの視点では斬新に思えるところなどを発見することを目標に、3日間にわたる四国研修旅行を実施しました。具体的には、四国霊場88か所巡り、高松市丸亀商店街での暮らし調査、「しまなみ海道」走破、広島県尾道での空き家再生プロジェクトに関する聞き取り調査などです。 2017年度の四国研修旅行を受け、2018年度は、ドイツにおける「持続可能な地域」づくりの理念と実践について学びます。本演習では、「持続可能な地域づくり」にむけた取り組みや実践を可能な限り広くとらえることとし、以下のようなテーマで、ドイツを対象とした研究を深めます。</p> <p>○街の「歴史」は住民のアイデンティティをつくる ナチスの歴史、東西分断の歴史 ○街として人口減少に取り組む ○「多文化社会」は豊かな体験の宝庫 難民の流入をどうとらえるか ○フェアラインが作る住民生活と街の生活 ○エネルギー協同組合が目指すもの 脱原発と村づくり ○サブカルチャーが街にもたらすものとは？ ○カフェ文化最前線 ○労働時間の再編とパートタイム正社員制度がもたらすもの ○社会に新たな方向性を指し示す GLS銀行が支える小さな「革命」 ○...等</p> <p>本演習では、「政治過程論」という分野で蓄積された「民主クラシー」分析の手法について、文献購読を通じて学ぶとともに、上記のテーマに迫るためのフィールドワークを実施します。</p> <p>文献購読 文献購読は演習の基本です。全員が文献を購読していることを前提に、レジュメ発表に促ってのプレゼンテーション、討論を行います。今年も大量の文献を次々と読みます。 フィールドワーク 本演習では、かなりしんどいフィールドワークが必須となっています。詳しくは、ゼミ参加者との協議によって</p>
教材・教科書	
参考図書	高松平蔵『ドイツの地方都市はなぜ元気なのか：小さな街の輝くクオリティ』（学芸出版社、2008年） 村上敦『ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか 近距離移動が地方都市を活性化する』（学芸出版社、2017年）
参考URL	
授業以外の学習	毎週開講される演習の時間にはそれまでの日々の生活で得たものや失ったものを積極的にプレゼンや討論に持ち込んでください。授業参加者の授業以外の時間の過ごし方が演習の性格を決める、といっても過言ではありません。
成績評価の方法	毎回演習に参加することは成績評価の前提条件です。欠席したくないような演習を皆さんで作っていただきます。無断欠席は参加者相互の信頼関係を損なうものであり認められません（＝理由のない無断欠席は履修放棄とみなされます）。そのうえで、成績評価は自己評価とします。
成績評価の基準	成績評価の項目にあるように出席を成績評価の前提としたうえで、評価は自己評価です。その評価基準は参加者自らが設定してください。
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しませんが、お互いの日程を調整のうえ、必要に応じて面談します。024-548-8026 a027@ipc.fukushima-u.ac.jp
留意点・注意事項	本シラバスを読めばわかるように本演習は授業時間はもちろんのことそれ以外でも大変負担の重いゼミです。公務員講座やアルバイト、インターンシップへの参加といった理由で演習を欠席することはできませんし、各地でのフィールドワークや週末のイベント企画参加などが多数予定されています。参加できないことが重なると4年次での転ゼミが必要となったり、ゼミの単位を落とすことにつながりかねません。慎重に判断して参加を決定してください。
その他	
ディプロマポリシー大区分1	行政政策学類のディプロマポリシー
ディプロマポリシー小区分1	問題発見・調査・読解能力（行政政策学類）
ディプロマポリシー大区分2	行政政策学類のディプロマポリシー
ディプロマポリシー小区分2	研究分野の知識（行政政策学類）
ディプロマポリシー大区分3	行政政策学類のディプロマポリシー
ディプロマポリシー小区分3	解決能力・応用能力（行政政策学類）
ディプロマポリシー大区分4	行政政策学類のディプロマポリシー
ディプロマポリシー小区分4	表現力・コミュニケーション能力（行政政策学類）
ディプロマポリシー大区分5	
ディプロマポリシー小区分5	
ディプロマポリシー大区分6	
ディプロマポリシー小区分6	
ディプロマポリシー大区分7	
ディプロマポリシー小区分7	
ディプロマポリシー大区分8	
ディプロマポリシー小区分8	
ディプロマポリシー大区分9	
ディプロマポリシー小区分9	
ディプロマポリシー大区分10	
ディプロマポリシー小区分10	
ディプロマポリシーその他	